

連絡先: Peter Galvin, (520) 907-1533, pgalvin@biologicaldiversity.org

貴重な沖縄ジュゴンへの脅威となる米軍基地建設に対して控訴

サンフランシスコ

本日（2018年9月24日）、米国の環境保護団体と沖縄の住民は、沖縄島での新たな米軍基地建設を容認した裁判所の判決に対して控訴した。基地は、マナティーの仲間であり、絶滅危惧種である、沖縄に生息する最後のジュゴンの重要な棲息地を破壊することになる。

控訴は、8月に出された連邦地裁の判決は、米国国家歴史保存法の重要な手続きや住民参加の条件を見落とした、と主張するものである。

控訴の原告は、日本環境法律家連盟、ジュゴン保護基金、島袋杏奈、東恩納琢磨、真喜志好一、Center for Biological Diversity (CBD) と Turtle Island Restoration Network。控訴通知を提出した Earthjustice が代理人となる。

CBD の創設者である Peter Galvin は以下のように述べている。「今回がジュゴンを保護する最後の機会になるかもしれない。裁判所は、米軍に対して、法を遵守するよう、このすばらしい動物を絶滅させないよう、強いることが必要である」「トランプ政権は、この美しい沿岸の海での巨大な軍事基地の建設がもたらす文化や環境への害を無視してはならない」。

ジュゴン訴訟は、昨年、環境面について本案としてきちんと審理されるべきだと判断を下した第9巡回控訴裁判所へ、再び戻ることになる。辺野古の海草の生息地が、基地による破壊されることは、重要な文化的アイコンであり、この地球において最も危機に瀕している沖縄のジュゴンを、絶滅に追いやることになりかねない。地球上において、沖縄のジュゴンはわずかしかない。

Turtle Island Restoration Network の代表 Todd Steiner は述べている。「米軍の滑走路のために日本のサンゴ礁を埋め尽くすことで、私たちがより安全になることはない。生物の生息地の破壊や種の絶滅を助長することは、私たち全てをさらに不安にする」「沖縄のジュゴン、ウミガメ、サンゴ礁、人間、そして海の環境全体が米国の司法制度に求めているのは、真の意味での国家の安全を守るために、生態系にとってもおぞましいこの計画を拒否することだ。」

トランプ政権は、辺野古における 125 エーカー以上の豊かな海草とサンゴの生息地を埋立たせて、米軍の新たな飛行場の建設を開始している。工事は、現在一時的に中止となっている。

ジュゴンは沖縄の人々により古くから崇められ、そして津波を警告する「セイレン／人魚」として称賛されてきた。ジュゴンは日本の文化財保護法により、文化的価値を有するものとして登録されている。国家歴史保存法と国際法に基づいて、米国は、他国にとって文化的価値を持つ場所やものへの害を回避、あるいは緩和しなければならない。